
魂・ムーヴメント～魔王に恋して～

鬼団子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魂・ムーヴメント〜魔王に恋して〜

【Nコード】

N3726C

【作者名】

鬼団子

【あらすじ】

2年前、自ら命を絶った少女。その正体はなんと魔王だった。少年ハルトは、秘めたる想いを打ち明けに、魔王の城跡へと向かう……。しかし、そこで何者かに遭遇する……………

（前書き）

恋愛ものなんだかファンタジーものなんだか、ゴチャ混ぜな作品と
なってしまうました。

短編小説ですので、すぐ読み終わると思います。

温い風が吹く、荒れ果てた城の最上階で、少年と少女が向かい合う

少女

「お願い……………私を……………殺して」

少年

「それは……………出来ない」

少女

「でも、私は悪人なんですよ？……………罪を犯してしまったのなら、いつそ殺されてもいい……………貴方の手で」

少年

「……………でも、せつかく仲良くなれたのに、殺すことなんて出来やしないよ……………」

少女

「でも、私は魔王よ？モンスターなのよ？人間と一緒にには暮らせないの……………」

少年

「魔王だろうが何だろうが関係ない……………ただ、もう二度とこんな事をしないなら……………俺達の所へ来ないか」

少女

「でも……………無理なの。それに、私は沢山の人を殺してしまった……………」

……私の中にある罪悪感は消えない。一生それを背負って生きるよ
りは……………私を殺してもらった方がいいと思ったの」

少年

「でも……………やっぱり殺すなんて出来やしないよ!」

少女

「……………じゃあ……………こうするしかないわね……………」

すると、少女は男に向かって抱きつく

剣が何かを貫いたような感触が腕に伝わる

少女

「好きだよ……………」

少年

「リン……………」

動かなくなった少女を、少年は強く抱き締めた

……………

……………

……………

「ふう……………いい風だ」

広いビル街の中心部を

一人の少年が歩いている

その少年の名は

ハルト

“魂・ムーヴメント”

ハルト

「……………ここか」

たどり着いたのは、2年前のあの時の城跡。

ハルト

「おーい、誰か居るかー!?」

?

「はーいつ、今行きまーす!」

ハルト

「!?!?」

(ま、まさか…リンじゃないよな…………でも、声が似てるぞ……………)

現れたのは、銀髪でツインテールの髪型で、目の色は赤く、耳の先が尖っていて、ぶかぶかの白いコートに身を包み、眼鏡をかけている小さな少女だった。

？

「お待たせ……………っ！？あんだ、まさかハルト……………じゃないよね……………。アハハハ……………」

ハルト

「そう。俺が間違はなくハルトだ……………。そして君は、リン……………かつての……………大魔王リンなのか？」

？

「ふふ……………正解〜」

そう言うと、少女は眼鏡を外し、ハルトの方へ歩み寄る。

？

「そう。いかにも私が、悪の大魔王リン様よ！！」

ハルト

「い……………生きてたんだ……………ヒッ……………ヒグッ」

リン

「なに泣いてんのよ、みっともないわねー」

ハルト

「ウツ……………だって……………ヒッ……………あの時倒れて……………動かなくなつて……………エグッ」

リン

「あれ？演技よ演技。魔王である私が、あの程度でくたばる訳ないじゃない。勘違いしないでよねっ」

ハルト

「良かった……生きてて………ウッ」リン

「もう、泣かないでよ！！ハンカチ貸したげるからコレで拭きなさい！！！！！！」

ハルト

「うん………ありがとう」

リン

「……でね、あの後ハルトに抱き締められて、私すごく嬉しかったの」

ハルト

「そっか……あの時は本当に死んじゃったかと思ったよ。そして、何故か抱き締めたくなったんだ」

リン

「ふふっ………今となつては、いい思い出だわ」

ハルト

「へへ………。それでさ、ちょっと話したい事があるんだ」

リン

「何？話したい事って。」

ハルト

「2年前、リンが死ぬフリをして抱きついてきた時、耳元でこっそり『好きだよ』って声が聞こえたんだ」

リン

「……………聞いてちゃった？」

顔を赤くして言うリン

ハルト

「俺も……………リンの事が好きなんだ」

リン

「嬉しい……………私も好きだった……………」

リン

「旅をしている貴方に逢ってから、すぐに好きになった。いわゆる『一目惚れ』ってやつね」

ハルト

「俺もだよ。あの時はまさか本当に魔王だとは思わなかったけど、可愛い娘だな、って。」

リン

「そ……………そっ？……………って、いきなり何するっぐっ」

ハルトはいきなりリンを抱き上げ、そっと口づけをする

リン

「ん……………くっ……………じゅる……………はぁ」

そして静かに唇を離す

リン

「はぁ……………びっくりしたぁ」

ハルト

「……………「めんっ！！いきなりこんな事しちゃって……………」

リン

「うっん、気持ち良かったよ……………ありがとう」

ハルト

「そ、そっか。へへへ……………おや、もうこんな時間だ。それじゃあまた明日！！」

リン

「待って！！……………私も一緒に……………」

ハルト

「……………うん。いいよ。家に泊まっていきなよ」

リン

「……………やったぁ」

リンは小さくガッツポーズをした

）
終
）

(後書き)

元々SFものを作る予定だったので、急に思い付いたストーリーを色々いじっていくうちにこうなりました。

最初は『暴走した警備システムを食い止めるべく、一人の男がホバーマシンで出撃する』というものになる予定でした。

しかし、次に『コンピューター世界で、ウイルスと戦うヒーローも』と、いずれも某ゲームのパクリです。

で、試行錯誤の末に出来たのがコレ。

自分でもまだ納得のいかない点もあるので、これを生かして次回も作っていいこうと思います。

次はやっぱりSFもの？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3726c/>

魂・ムーヴメント～魔王に恋して～

2010年12月19日10時42分発行